
別れ

今日源石

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

別れ

【Nコード】

N3437BA

【作者名】

今日源石

【あらすじ】

今日は葬式。私は祖母との思い出を思い出しながら…

生前、祖母は私によく言っていた。

「別れの挨拶はどんな時でも必ず笑顔で『また会おうね』と言っただよ。そうすれば、また会えることを糧に生きていけるから」

この科白を使う時に祖母は一番の笑顔を私に見せた。

この科白と輝く笑顔は私の頭から抜ける事なく生きてきた。

そして今日は葬式である。

重く厳かな雰囲気とはこの事が、私にとって初めての経験である。少し慣れない場所にまだ戸惑いがある。その為なのか緊張もしていないのに汗をかいた感覚があった。

祖母の方向を見てみると、泣いている姿を全く見せていなかった。私に向けているようなその優しい視線が私に涙を誘うかのようだった。でも私は泣かなかった。泣きたくなかった。あまり泣かない性格が涙を拒んでいる感じだった。

式が順調に進んでいるのをあやふやではありながら認識していた。その時、私は急に色々な思い出がまさに走馬灯のように思い出されていった。

実の父母という存在の認識の深い意味を感じたことのない私にとって祖母は唯一の私の父であり母であった。祖母は多くの厳しい躰を私に強いてきた。その一方で、私のやりたいと思ったことは全てやらせてくれていた。

ただ、一回だけとても怒られたことがあったのを覚えている。祖母の使う自転車に無理やり乗り込んで一回事故に遭いそうになった。その後、お八つが全く出てこなかったのは困ったものだと思っただけにそう思った。

祖母のおかげで家庭科の時間に苦勞することは無かったし、病氣

一つかかったことが無かった。

そして、いつの間にか家のルール化している「別れの挨拶はどんな時でも必ず笑顔で『また会おうね』と言う」は本当に良いことだと思った。この教訓は本当に感謝だった。

そんなことを思い出しているともう式が終了に近づいていた。

私は改めて祖母の顔の方を見た。感じたことは「別れ」とは思えない笑顔が見えた。このような時でも笑顔の祖母に私は感動した。

私も祖母に倣って笑顔になって心の中で呟いた。

「ごめんなさい。もっと、親孝行が出来たのに。もっと、多種多様な思い出を創れたはずなのに。でももうお別れです。天国でまた会いましょう。先に行ってください」

私はまた会えるような気がして嬉し涙が出た。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3437ba/>

別れ

2012年1月8日23時56分発行